

【No. 1】 工事監理業務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 工事費見積りのための説明
2. 代替案（VE）の評価
3. 施工要領書の作成
4. 施工者選定についての助言

〔解説〕 施工要領書は施工者が作成する。

答. 3

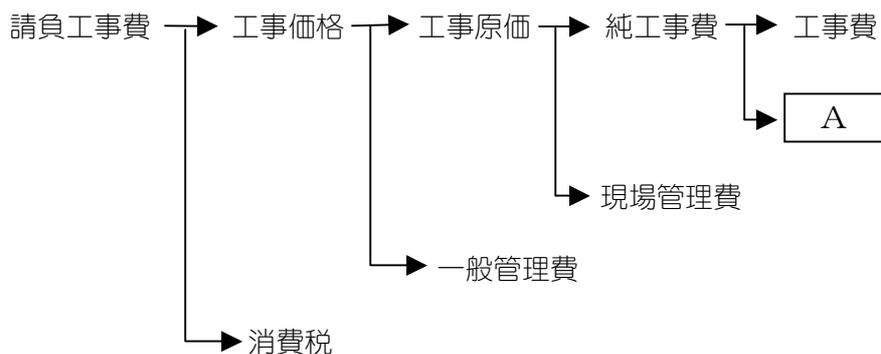
【No. 2】 工事監理業務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 必要に応じた主任技術者または監理技術者の選任
2. 工事公害防止、近隣対策などの検討及び助言
3. 労働安全、安全衛生対策に対する助言
4. 模型、材料及び仕上げ見本の検討及び承諾

〔解説〕 主任技術者、監理技術者は、施工管理業務の一部である

答. 1

【No. 3】 工事費の構成に関する以下の図の中で、 部分に入る最も適当なものはどれか。



1. 直接仮設費

2. 運搬費
3. 共通仮設費
4. 共通費

答. 3

---

【No. 4】 工事契約に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 請負契約書に工事引渡し後における、瑕疵担保に関する取り決め事項の記述をする。
2. 共同請負とは、通称 J V と呼ばれ、複数の請負者が共同で連携して請け負う方式で、代表施工者が施工する方式である。
3. 随意契約とは、発注者が任意に選定した特定の請負者に対して発注する方式である。
4. 一般的に随意契約の決め方には、特命随意契約と見積り合わせの二つがある。

*〔解説〕代表施工者が代表して請け負うのではなく、得意分野など共同して施工を分担して、請け負う方式である。*

答. 2

---

【No. 5】 工事契約に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. PFI 方式とは、公共施設等の建設、維持管理等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う方式である。
2. オープンブック方式とは、支払金額とその対価の公正さを明らかにするため、施工者が発注者へ、コストに関する情報を開示する方式で、コストオン方式とも呼ばれている。
3. リバースオークションとは、買い手が売り手を選定するオークションで、内装工事における業者選定等の手法としても活用されている。
4. CM 方式は、ピュア CM 方式と CM アットリスク方式に大別される。

*〔解説〕コストオン方式と、オープンブック方式とは別の請負方式である。*

答. 2

---

【No. 6】 商業施設工事の各段階における業務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 積算・見積り段階の業務は、工事監理者の立場とともに工事費見積りのための説明など、重要な監理業務がある。
2. 見積書作成時、施工現場を調査して、設計図書など書類上の不明事項を確認すること。
3. 工事等で発生した産業廃棄物の処理は、マニフェスト制度に沿った処理をしないといけない。
4. 完成検査は、契約上施工者が自主的に行う検査である。

答. 4

---

【No. 7】 工事契約及び工事請負に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 見積りには工事の各種保険も見込んでおく。
2. 契約書は当事者間の合意内容を明確にし、後日の紛争防止のためにきわめて重要である。
3. 工事の請負締結後、着工前までに、見積り条件の内容確認を行い、質疑応答の日時を確認する。
4. 完成検査に合格して工事の目的物を引き渡す時、鍵・備品・各種書類の目録を説明して引き渡す。

答. 3

---

【No. 8】 仮設工事と解体撤去工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 仮設工事は工事を進めるに当たり不可欠な要素である。
2. 共通仮設の現場調査・準備は施工現場の状況を事前に調査し、必要な設備を整えることである。
3. 解体の規模や内容により周囲の養生方法、仮設の方法、解体の方法、作業時間の確認、第三者や近隣に対する対策を行う。
4. 建築物などの解体時は安全作業優先のため、設備の配管・配線などはできるだけ一度に解体できるようにする必要がある。

【No. 9】 タイル工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 床タイル張り工法で、密着張りとは、砂とセメントを空練した敷モルタルにセメントペーストを均し、張付け、木槌類でたたき締める工法である。
2. 壁タイル圧着張り工法とは、下地モルタルの上に塗付けモルタルを塗り、タイル側に張付けモルタルを平に塗り付け張る工法である。
3. 壁タイルの接着剤張り(モルタル下地)工法は、金ごてで下地モルタルを塗り、接着剤を平に塗り付けタイルを張る工法である。
4. 壁モザイクタイル張り工法は、木ごて押さえで下地モルタルを塗り、張付けモルタルを平に塗り付け台紙に張った5 cm以下のタイルを張る工法である。

〔解説〕密着工法ではなく、敷きモルタル工法である（床工法に密着工法はない）

【No.10】 金属工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 天井の軽量鉄骨下地において吊ボルト及びインサート間隔は900 mm以内とし、端部からは150 mm以内とする。
2. 天井ふところが、高さ1200 mm以上に軽量鉄骨下地の場合、必ず振れ止め等補強が必要であり、斜め材での補強等を行う。
3. 壁面の軽量鉄骨下地組において、ランナーは端部を押さえ、900 mm程度に、打込ピン等で、床、梁下、スラブ下等に固定する。
4. 壁面の軽量鉄骨下地組において、スタッドの間隔は、下地張りのある場合、450 mm程度、一層張りの場合300 mm程度とする。

〔解説〕H=1500 以上となる場合、振れ止めが必要となる。

【No.11】 ガラス工事に関する次の用語とその意味の組合せのうち、最も不適当なものはどれ

か。

1. 面クリアランス———窓枠との接触による熱割れ防止及び水密性向上のため緩衝材挿入や弾性シーリング充填スペース確保に必要
2. エッジクリアランス———主に地震時の建物躯体の面内変形に対し、板ガラスと窓枠との接触防止のために必要
3. ガラスブロック———エッジクリアランスにガラスの自重を受けるためのバックアップ材
4. かかりしろ———主に風圧力による板ガラスの窓枠からの外れ防止やガラス切断面の反射を無くすために必要

〔解説〕セッティングブロックの記述である。

答. 3

---

【No.12】各種工事の施工に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 塗装工事は下地の種類に適合した塗料の選択と、工法採用が必要となる。
2. 木工事では使用する樹種によって特徴が異なるので、工事の使用部位に注意して選択する。
3. 金属工事でよく使われるスチール材料は錆び易いので、使用場所に注意し、防食処理が必要である。
4. 石工事において石材の加工はほとんどが現場で行われる。

答. 4

---

【No.13】石材に関する次の記述のうち、水成岩はどれか。

1. 凝灰岩
2. 花崗岩
3. 安山岩
4. 蛇紋岩

〔解説〕花崗岩と安山岩は火成岩、蛇紋岩は変成岩

答. 1

---

〔No.14〕材料と比重の組み合わせに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- |              |           |
|--------------|-----------|
| 1. 針葉樹       | 0.3～0.6   |
| 2. 鋼         | 7.79～7.87 |
| 3. 大理石       | 2.5～2.9   |
| 4. ポリカーボネート板 | 0.8～0.9   |

〔解説〕ポリカーボネート板の比重は1.2

答. 4

---

〔No.15〕材料に関する次の記述のうち、不燃材料でないものはどれか。

1. 板ガラス
2. 木毛セメント板
3. グラスウール
4. フレキシブルボード

〔解説〕木毛セメント板は準不燃材料である

答. 2